

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）
分担研究報告書

健診センター・人間ドック施設における健診機会を利用した HIV 知識習得の有効性の推定

研究分担者 大森亮介 国立大学法人 北海道大学 特任准教授
研究分担者 駒野 淳 国立病院機構 名古屋医療センター 臨床検査科長
研究協力者 崎原永辰 那覇市医師会生活習慣病検診センター センター長
研究協力者 真栄田哲 那覇市医師会生活習慣病検診センター 検診部次長
研究協力者 上原大知 那覇市医師会生活習慣病検診センター 検診部
研究代表者 川畑拓也 地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所 主幹研究員

研究要旨

HIV 感染症の流行制圧には疾病への正しい理解が必須であることが知られており、効果的な知識習得の為の手法の開発が必要である。職域健診は広く労働者の健康を守るため法的根拠の下で実施されるものであり、その機会を HIV 感染症への知識習得の機会として活用することができれば国民への啓発として極めて高い効果が期待され、ひいては HIV 感染症の流行制圧に大いに貢献できると考えられる。本研究は職域健診において HIV 感染症啓発活動の効果を数理モデルによって解析するものである。このためには知識提供前後の集団間で HIV 感染症の理解度を比較する必要がある。今年度は、健診センターの受検者を対象に知識提供前の HIV 感染症に対する理解を測る書面調査を行った。

その結果、本研究の調査対象では HIV の知識習得に余地があることが判明し、健診施設での HIV の知識習得の効果が期待される。

A. 研究目的

感染症制圧は、効果的な介入を効果的な宿主集団において計画的に行う事が必須である。HIV は性感染症の一つである為、効果的な介入計画立案のための正確な流行状況を把握しにくい状況となっている。正確な流行状況把握のためには HIV 検査受検者を増加する必要がある、そのためには一般市民全体に HIV を正しく理解していただく必要がある。

我が国での HIV への理解度を代表する例として、以下のようなものがある。HIV はその発見当時は致死性が非常に高く恐れられていたが、多くの AIDS 発症予防薬が開発され、感染を早期発見できれば致死性は非常に低いものとなった。これに対し、平成 30 年 1 月実施の内閣府の世論調査「HIV 感染症・エイズに関する世論調査」において、回答者の 52.1%が、「エイズは死に至る病である」と回答しており、大半の国民が HIV に対する正しい理解がなされていない事を示唆している。HIV への正しい理解がなされていない事は個人レベルでの HIV 感染予防といった介入が効果的に行われていない事が想定される。

職域健診は、労働者が健康に働き続けられるようにするため、事業者が費用を負担し、労働

者に健康診断を受けてもらうことで、病気の早期発見や健康意識の向上を目的としている。健診センターや人間ドック施設（以下、健診施設）での健診において、HIV の正しい知識を提供する事ができれば、HIV 検査受検者数の増加や、将来の HIV 感染を未然に防ぐことに繋がると予想され、職域健診の目的にも合致していると考えられる。

本研究では、効果的な一般市民の HIV 感染症に対しての正しい知識習得の手法を確立するため、職域健診における HIV に対する知識の提供の HIV に対する理解度への影響を推定することを目的とする。

B. 研究方法

健診センター・人間ドック施設における HIV 理解度に関するアンケート調査

職域健診における HIV に対する知識の提供の HIV に対する理解度への影響の推定のため、健診センター受診者に HIV に対する知識提供を行い、HIV に対する理解度を、知識提供無しを受診者の理解度と比較することが目的である。

この目的のために、平成 30 年 1 月実施の内閣府の世論調査「HIV 感染症・エイズに関する

世論調査」と同一のアンケートを、那覇市医師会生活習慣病検診センターの受診者を対象に、平成31年1月4日から17日にかけて実施した。本研究の選択バイアスの有無を確認するため、内閣府が行ったアンケート調査結果と比較し、独立性の検定を行った。

(倫理面の配慮)

本研究は地方独立行政法人 大阪健康安全基盤研究所倫理審査委員会の承認を得て実施した(申請番号:1802-077)。

C. 研究結果

1. アンケート調査対象について

沖縄で行なったアンケート調査には男性48名、女性54名、不明1名の計103名が参加した。内閣府の調査対象の性比とほぼ同一であった(カイ二乗検定、 p 値1)。年齢構造については、18歳から29歳までが19人、30歳から39歳までが28人、40歳から49歳までが25人、50歳から59歳までが21人、60歳から69歳までが6人、70歳以上が3人であり、内閣府の実施したアンケート調査の年齢構造と大きく異なった(カイ二乗検定、 p 値 <0.01)。

2. 設問ごとの回答の傾向

HIV感染症とエイズの関係の認識については、同じ事を意味すると思っていたという回答が一番多く、次いで、違うものであることはなんとなく知っていたが、詳しくは知らなかったという回答が多かった。エイズの印象については、死に至る病であるという回答が一番多く、次いで、原因不明で治療法がないという回答が多かった。HIV感染の原因については、無防備な性行為という回答が一番多く、次いで、注射器の回し打ちという回答が多かった。HIV・エイズの最新情報の認知度については、治療方法は進歩しているが、完治させる事はできず、薬を飲み続けなければならないという回答が一番多く、次いで、適切に治療することにより、他の人へ感染させる危険性を減らす事ができるという回答が多かった。HIVに感染したと思った場合の行動については、診療所いや病院で相談するという回答が一番多く、次いで、診療所や病院で検査を受けるという回答が多かった。保健所での匿名・無料のHIV検査の認知度については、知っているという回答と知らないという回答が同数であった。保健所でHIV検査を受けやすくするために重要な事については、匿名・無料で受けられることの周知という回答が一番多く、次いで、プライバシーの保護という回答が多かった。

3. 内閣府が実施した調査結果との比較

カイ二乗検定およびフィッシャーの正確検定において p 値が0.3未満である場合を大きな差と呼ぶこととする。表1に、本研究の調査結果と内閣府が実施した調査結果との統計的な相違の有無を各設問、各年齢群で示す。HIVとエイズの関係の認識について、18歳から29歳まで、50歳以上の年齢群が、エイズの印象については60歳から69歳までを除いた全年齢群が、HIV・エイズの最新情報の認知度は30歳以上の年齢群全てにおいて、HIVに感染したと思った場合の行動については18歳から49歳までと50歳から59歳まで、保健所での匿名・無料のHIV検査の認知度については18歳から59歳までに、内閣府の調査結果との大きな差が見られた。HIV感染の原因、及び、保健所でHIV検査を受けやすくするために重要な事についての回答は全年齢群で大きな差が見られなかった。

D. 考察

多くの質問項目において、主に60歳以上の年齢群に、内閣府の調査結果と相違が認められた。この原因の一つとして、60歳以上の年齢群のサンプル数の不足が考えられる。次年度は特に60歳以上の年齢群のサンプル数の増加を目標に、アンケート調査を続行する。

エイズの印象について、特定の人達だけ関係のある病気であると回答した人数が少なかった。また、HIV・エイズの最新情報の認知度について、全て知らないと回答した人が少なかった。これらの結果が、本研究と内閣府の調査結果の差を生み出していたと考えられる。この点においては、内閣府の調査結果と比べ、本研究の調査対象がHIVの理解度が高いと考えられる。一方で、HIVの理解度が低いと考えられる結果もあった。HIVとエイズの関係の認識については、正しく理解していたと回答した人数が少なかった。これは、本研究の調査対象がまだHIVの理解度を高める事ができる余地がある事を意味し、本研究の主題である、健診施設でのHIVの知識習得の効果が期待される。

低年齢群ほど、保健所などの相談窓口で相談すると回答した人数が少なかった。これは内閣府の調査結果と合致する結果であった。若年層の一般市民の保健所の活用の促進の為には、自治体による情報提供等の活動が必要である事が示唆される。

E. 結論

本研究の調査対象ではHIVの知識習得に余地があり、健診施設でのHIVの知識習得の効果が期待される。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Manyando Simbotwe, Daisuke Fujikura, Miyuki Ohnuma, Ryosuke Omori, Yoshikazu Furuta, Geoffrey Munkombwe Muuka, Bernard Mudenda Hang'ombe, Hideaki Higashi. Development and application of a Bacillus anthracis protective antigen domain-1 in-house ELISA for the detection of anti-protective antigen antibodies in cattle in Zambia. *PLoS one*. 13(10) e0205986 2018 年
2. Ryosuke Omori, Hiam Chemaitelly, Christian L. Althaus, Laith J. Abu-Raddad. Does infection with Chlamydia trachomatis induce long-lasting partial immunity? Insights from mathematical modelling. *Sexually Transmitted Infections*. [epub ahead of print] 2018 年
3. Houssein Ayoub, Hiam Chemaitelly, Ryosuke Omori, Laith Abu-Raddad. Hepatitis C virus infection spontaneous clearance: Has it been underestimated? *International Journal of Infectious Diseases*. 75 60-66. 2018 年
4. Takeshi Koyama, Ryosuke Omori, Keisuke Koyama, Yoshitaka Matsui, Masahito Sugimoto. Optimization of diagnostic methods and criteria of endometritis for various postpartum days to evaluate infertility in dairy cows. *Theriogenology*. 119(1) 225-232 2018 年
5. Jednipit Borthong, Ryo Nakao, Ryosuke Omori, Chihiro Sugimoto, Orasa Suthienkul and Kimihito Ito. Comparison of database search methods for the detection of Legionella pneumophila in water samples using metagenomic analysis. *Frontiers in Microbiology*. 9(1272) 2018 年
6. Silva P. Kouyoumjian, Marieke Heijnen, Karima Chaabna, Ghina R. Mumtaz, Ryosuke Omori, Peter Vickerman, Laith J. Abu-Raddad. Global population-level association between HSV-2 prevalence and HIV prevalence: Systematic review and meta-analyses. *AIDS* 32 1343-1352 2018 年
7. Lara Khadra, Manale Harfouche, Ryosuke Omori, Guido Schwarzer, Hiam Chemaitelly, Laith J. Abu-Raddad. The epidemiology of herpes simplex virus type 1 in Asia: systematic review, meta-analyses, and meta-regressions. *Clinical Infectious Diseases* [epub ahead of print] 2018 年
8. Jun Moriwaki, Ryosuke Omori, Michito Shimozuru, Hifumi Tsuruga, Tsutomu Mano, Toshio Tsubota. Evaluation of body condition using body mass and chest girth in brown bears of Hokkaido, Japan (*Ursus arctos yesoensis*). *Japanese Journal of Veterinary Research* 66(2) 71-81 2018 年
9. Ryosuke Omori, Nico Nagelkerke, Laith J. Abu-Raddad. HIV and Herpes Simplex Virus Type 2 Epidemiologic Synergy: Misguided Observational Evidence? *Sexually Transmitted Infections* 94 372-376 2018 年
10. Satoshi Sekiguchi, Patrick Presi, Ryosuke Omori, Katharina Staerk, Manon Schuppers, Norikazu Isoda, Yasuhiro Yoshikawa, Takashi Umemura, Hiroyuki Nakayama, Yoshinori Fujii, Yoshihiro Sakoda. Evaluation of bovine viral diarrhea virus control strategies in dairy herds in Hokkaido, Japan using stochastic modelling. *Transboundary and Emerging Diseases* 65(1) e135-e144 2018 年.
11. Kurata T*, Uchino K, Hotta C, Ogura A, Miyoshi T, Ogawa T, Kanbayashi D, Tanaka T, Yumisashi T, Komano J. Analysis of clinical parameters affecting immunoglobulin M-based diagnosis in adults with confirmed cases of rubella. *Microbiol Immunol*. 2019 Jan;63(1):32-35. doi: 10.1111/1348-0421.12664. PubMed PMID:30549103.
12. Kojima Y, Furubayashi K, Kawahata T, Mori H, and Komano J. Circulation of distinct *Treponema pallidum* strains in individuals with heterosexual orientation and men who have sex with men (MSM). *J Clin Microbiol*. 2019 Vol.57(1), doi:10.1128/JCM.01148-18.
13. Sakon N, Sadamatsu K, Shinkai T, Hamajima Y, Yoshitomi H, Matsushima Y, Taerasoma F, Nakamura A, Takada R, Komano J, Nagasawa K, Katayama K, Kimura H. Molecular epidemiology of large

- foodborne outbreaks due to human norovirus GII.P17GII.17-contaminated dried shredded seaweed (nori). *Emerg Infect Dis.* 2018 May;24(5):920-923. doi: 10.3201/eid2405.171733.
14. 下坂馨歩, 浅香 敏之, 今村 淳治, 横幕 能行, 片山 雅夫, 川崎 朋範, 下坂 寿希, 亀井 克彦, 矢田 啓二, 駒野 淳. ベトナム人 HIV 陽性者から分離された *Talaromyces marneffeii* によるマルネツフェイ型ペニシリウム症の 1 例. *Med Mycol J.* 2018. 60(1), 15-20, 2019
 15. Koji Yahara; Shu-ichi Nakayama; Ken Shimuta; Ken-ichi Lee; Masatomo Morita; Takuya Kawahata; Toshiro Kuroki; Yuko Watanabe; Hitomi Ohya; Mitsuru Yasuda; Takashi Deguchi; Xavier Didelot; Makoto Ohnishi. Genomic surveillance of *Neisseria gonorrhoeae* to investigate the distribution and evolution of antimicrobial resistance determinants and lineages. *Microbial Genomics* 2018;4, DOI 10.1099/mgen.0.000205
 16. Makiko Kondo, Koji Sudo, Takako Sano, Takuya Kawahata, Ichiro Itoda, Shinya Iwamuro, Yukihiro Yoshimura, Natsuo Tachikawa, Yoko Kojima, Haruyo Mori, Hiroshi Fujiwara, Naoki Hasegawa, Shingo Kato. Comparative evaluation of the Geenius™ HIV 1/2 Confirmatory Assay and the HIV-1 and HIV-2 Western blots in the Japanese population. *PLoS One* 13(10):e0198924
 17. 古林敬一、小島洋子、川畑拓也、RPR 陰性の第 1 期梅毒、日本性感染症学会誌、Vol.29, No.1 141-142 2018
2. 学会発表
1. 川畑拓也、小島洋子、森 治代、本村和嗣、渡邊 大、大森亮介、駒野 淳、福武勝幸、健診センター・人間ドックにおける HIV 検査の現状に関するアンケート調査結果、第 32 回近畿エイズ研究会学術集会、大阪、2018
 2. 小島洋子、川畑拓也、森 治代、駒野 淳、HIV 陽性者における HBV および梅毒トレポネーマの感染実態、第 32 回近畿エイズ研究会学術集会、大阪、2018
 3. 川畑拓也、小島洋子、古林敬一、口腔・咽頭検体の梅毒トレポネーマ遺伝子 PCR において梅毒陽性と誤認しかけた事例、第 7 回日本性感染症学会関西支部総会、大阪、2018
 4. 川畑拓也、小島洋子、古林敬一、モバイルリアルタイム PCR 装置 (PCR1100) を用いた梅毒トレポネーマ PCR 法の構築、第 31 回日本性感染症学会学術大会、東京、2018
 5. 川畑拓也、小島洋子、森 治代、井戸田一朗、近藤真規子、佐野貴子、貞升健志、長島真美、高田 昇、加藤真吾、須藤弘二、今村顕史、エビデンスに基づいた専門職向け HIV 検査 Q&A 集の作成、第 32 回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018
 6. 小島洋子、川畑拓也、森 治代、本村和嗣、渡邊 大、大森亮介、駒野 淳、福武勝幸、職域での健診機会を利用した健診センター・人間ドック施設における HIV 検査の現状調査、第 32 回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018
 7. 近藤真規子、佐野貴子、長島真美、貞升健志、川畑拓也、加藤真吾、今村顕史、全国地方衛生研究所における HIV 検査実施状況、第 32 回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018
 8. 貞升健志、長島真美、北村有里恵、熊谷遼太、根岸あかね、新開敬行、松岡佐織、川畑拓也、近藤真規子、今村顕史、全国の地方衛生研究所を対象とした HIV 検査精度管理の実施、第 32 回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018
 9. 土屋菜歩、佐野貴子、近藤真規子、堅多敦子、石丸雄二、城所敏英、カエベタ亜矢、川畑拓也、貞升健志、須藤弘二、加藤真吾、大木幸子、今井光信、今村顕史、保健所・検査所における HIV 検査・相談実施状況および陽性率に関するアンケート調査、第 32 回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018
 10. 土屋菜歩、佐野貴子、近藤真規子、堅多敦子、石丸雄二、城所敏英、カエベタ亜矢、川畑拓也、貞升健志、須藤弘二、加藤真吾、大木幸子、今井光信、今村顕史、保健所・検査所における梅毒検査実施状況および陽性率に関するアンケート調査、第 32 回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018
 11. 齊藤孝子、松浦基夫、川畑拓也、森 治代、小島洋子、HIV 急性感染における HIVAg/Ab の発光強度と HIV-1 RNA 定量の乖離について、第 32 回日本エイズ学会学術集会、大阪、2018
- H. 知的財産権の出願・登録状況
該当なし

表1 各設問および各年齢群での本研究の調査結果と内閣府の調査結果の相違

年齢群	設問						
	HIVとエイズの関係の認識	エイズの印象	HIV感染の原因	HIV・エイズの最新情報の認知度	HIVに感染したと思った場合の行動	保健所での匿名・無料のHIV検査の認知度	保健所でHIV検査を受けやすくするために重要なこと
18歳-29歳	相違あり	相違あり	相違なし	相違なし	相違なし	相違なし	相違なし
30歳-39歳	相違なし	相違あり	相違なし	相違あり	相違なし	相違なし	相違なし
40歳-49歳	相違なし	相違あり	相違なし	相違あり	相違なし	相違なし	相違なし
50歳-59歳	相違あり	相違あり	相違なし	相違あり	相違あり	相違なし	相違なし
60歳-69歳	相違あり	相違なし	相違なし	相違あり	相違なし	相違あり	相違なし
70歳以上	相違あり	相違あり	相違なし	相違あり	相違あり	相違あり	相違なし

カイ二乗検定およびフィッシャーの正確検定のP値が0.3未満の結果を相違ありとした

HIV とエイズの関係の認識（単位：人）

	該当者数	関係ないものだと思 っていた	同じことを意味する と思っていた	違うものであること はなんとなく知って いたが、詳しくはわ からなかった	正しく理解していた	わからない
内閣府調査						
総数	1671	189	617	434	331	100
18歳-29歳	133	5	40	51	37	0
30歳-39歳	175	12	67	47	46	3
40歳-49歳	271	20	106	70	72	3
50歳-59歳	265	16	122	66	61	0
60歳-69歳	361	59	141	84	63	14
70歳以上	466	77	140	117	52	80
本研究調査						
総数	102	4	42	32	21	3
18歳-29歳	19	1	10	6	2	0
30歳-39歳	28	2	11	10	5	0
40歳-49歳	25	1	8	8	8	0
50歳-59歳	21	0	11	6	3	1
60歳-69歳	6	0	1	2	1	2
70歳以上	3	0	1	0	2	0

エイズの印象（単位：人）

	該当者数	死に至る病 である	原因不明で 治療がない	特定の人達 にだけ関係 のある病気 である	毎日大量の 薬を飲まな ければなら ない	仕事や学業 など、通常 の社会生活 はあきらめ なければな らない	どれにもあ てはまら ず、不治の 特別な病だ とは思って いない	その他	わからない	計 (M.T.)
内閣府調査										
総数	1671	871	560	333	231	184	262	3	89	2532
18歳-29歳	133	68	52	30	24	16	22	0	2	214
30歳-39歳	175	104	68	20	37	23	25	1	3	281
40歳-49歳	271	153	107	42	41	28	52	1	4	428
50歳-59歳	265	148	86	49	36	29	47	0	1	396
60歳-69歳	361	185	118	87	58	52	60	1	12	573
70歳以上	466	212	130	105	35	35	57	0	66	640
本研究調査										
総数	102	45	24	12	18	11	23	7	4	144
18歳-29歳	19	10	3	0	3	3	4	2	1	26
30歳-39歳	28	12	8	5	7	6	5	1	2	46
40歳-49歳	25	14	8	2	4	1	5	3	0	37
50歳-59歳	21	6	4	4	4	1	6	1	0	26
60歳-69歳	6	3	1	1	0	0	0	0	1	6
70歳以上	3	0	0	0	0	0	3	0	0	3

HIV 感染の原因（単位：人）

	該当者 数	握手	軽いキ ス	無防備 な性行 為	かみそ りや歯 ブラシ の共用	お風呂 に一緒 に入る	トイレの 共用	ペットボ トル飲 料の回 し飲み	注射器 の回し 打ち	蚊の媒 介	授乳	その他	わか らな い	計 (M.T.)
内閣府調査														
総数	1671	35	291	1425	730	70	65	242	1230	416	373	3	89	4970
18歳-29歳	133	1	24	121	45	9	3	18	103	47	41	0	2	414
30歳-39歳	175	2	22	159	83	5	7	17	151	60	40	0	0	546
40歳-49歳	271	4	37	244	138	8	5	24	234	86	76	1	0	857
50歳-59歳	265	4	42	245	153	7	10	41	227	61	63	1	1	855
60歳-69歳	361	5	73	309	175	15	12	64	272	89	85	1	11	1111
70歳以上	466	19	93	347	137	27	28	78	243	73	67	1	74	1187
本研究調査														
総数	102	1	11	94	53	2	2	15	88	27	29	3	0	325
18歳-29歳	19	0	2	17	7	0	0	1	15	6	5	0	0	53
30歳-39歳	28	0	2	28	16	2	2	2	25	9	8	1	0	95
40歳-49歳	25	0	2	23	11	0	0	5	23	6	8	2	0	80
50歳-59歳	21	1	2	19	14	0	0	6	19	6	6	0	0	73
60歳-69歳	6	0	2	5	2	0	0	0	3	0	2	0	0	14
70歳以上	3	0	1	2	3	0	0	1	3	0	0	0	0	10

HIV・エイズの最新情報の認知度（単位：人）

	該当者数	治療薬には 1日1回1 錠の服薬で 済むものも ある	薬の副作用 はほとんど なく、通常 の社会生活 を送ること ができる	適切な治療 を行えば、 HIVに感染 しても、感 染していな い人とほぼ 同じ寿命を 生きること ができる	適切に治療 すること により、他 の人へ感染 させる危険 性を減らす ことができる	治療方法は 進歩してい るが、完治 させること はできず、 薬を飲み続 けなければ ならない	全て知らな い	その他	わからない	計 (M.T.)
内閣府調査										
総数	1671	110	227	442	556	367	586	2	167	2458
18歳-29歳	133	6	16	31	41	28	50	0	6	178
30歳-39歳	175	17	21	46	54	53	70	0	9	270
40歳-49歳	271	19	45	87	115	85	71	0	12	434
50歳-59歳	265	20	44	99	110	64	86	0	9	432
60歳-69歳	361	18	50	97	125	77	133	1	29	530
70歳以上	466	30	52	83	111	60	176	0	102	614
本研究調査										
総数	102	5	12	24	43	44	13	1	17	159
18歳-29歳	19	2	4	3	8	4	6	0	1	28
30歳-39歳	28	1	2	7	11	17	4	0	3	45
40歳-49歳	25	0	1	6	11	13	1	1	3	36
50歳-59歳	21	2	3	5	9	7	1	0	8	35
60歳-69歳	6	0	0	0	2	2	1	0	2	7
70歳以上	3	0	2	3	2	1	0	0	0	8

HIVに感染したと思った場合の行動（単位：人）

	該当者数	診療所や病院で相談する	保健所などの相談窓口 に相談する	診療所や病院で検査を受ける	保健所で検査を受ける	民間協力団体(NGO・ボランティア) の相談窓口 に相談する	何もしない	その他	わからない
内閣府調査									
総数	1671	570	333	444	236	20	20	2	47
18歳-29歳	133	46	18	49	17	3	0	0	0
30歳-39歳	175	50	32	57	32	2	1	0	1
40歳-49歳	271	75	50	81	54	5	4	0	2
50歳-59歳	265	79	64	66	48	5	0	1	2
60歳-69歳	361	129	88	95	37	4	4	0	4
70歳以上	466	191	80	96	48	1	11	1	38
本研究調査									
総数	93	32	14	25	20	1	0	0	1
18歳-29歳	19	10	0	6	3	0	0	0	0
30歳-39歳	25	8	2	7	7	1	0	0	0
40歳-49歳	24	6	3	8	7	0	0	0	0
50歳-59歳	18	4	8	3	2	0	0	0	1
60歳-69歳	5	3	0	1	1	0	0	0	0
70歳以上	2	1	1	0	0	0	0	0	0

複数回答されたものに関しては除いた

保健所での無料・匿名の HIV 検査の認知度（単位：人）

	該当者数	知っている	知らない
内閣府調査			
総数	1671	869	802
18歳-29歳	133	58	75
30歳-39歳	175	92	83
40歳-49歳	271	158	113
50歳-59歳	265	169	96
60歳-69歳	361	213	148
70歳以上	466	179	287
本研究調査			
総数	102	51	51
18歳-29歳	19	6	13
30歳-39歳	28	12	16
40歳-49歳	25	13	12
50歳-59歳	21	16	5
60歳-69歳	6	1	5
70歳以上	3	3	0

保健所で HIV 検査を受けやすくするために重要なこと（単位：人）

	該当者数	匿名・無料で受けられることの周知	保健所のある場所の周知	利便性の高い場所での検査の実施	プライバシーの保護	平日における検査日・検査時間の拡充	夜間検査の実施	休日検査の実施	十分な説明	適切な医療機関の情報提供	他の性感染症との同時検査	その他	特にな	わから	計 (M.T.)
内閣府調査															
総数	1671	1176	461	363	1098	399	533	603	700	627	317	7	42	52	6378
18歳-29歳	133	98	49	28	86	32	48	52	69	54	30	0	0	0	546
30歳-39歳	175	132	64	47	120	64	77	91	86	65	46	1	0	0	793
40歳-49歳	271	217	76	62	205	73	124	134	125	109	63	1	0	0	1189
50歳-59歳	265	209	71	71	209	78	105	130	126	122	57	1	1	3	1185
60歳-69歳	361	245	87	87	249	80	103	109	162	150	63	1	5	2	1344
70歳以上	466	276	112	67	229	73	76	88	132	126	59	3	35	46	1322
本研究調査															
総数	102	83	24	21	70	21	39	46	39	37	25	4	0	1	410
18歳-29歳	19	15	3	8	9	4	6	9	11	6	7	0	0	0	78
30歳-39歳	28	22	8	6	17	7	15	12	9	11	9	1	0	1	118
40歳-49歳	25	22	7	3	20	4	12	13	7	10	3	0	0	0	101
50歳-59歳	21	19	2	3	18	4	5	10	8	5	3	1	0	0	78
60歳-69歳	6	2	1	0	3	0	0	1	2	2	1	2	0	0	14
70歳以上	3	3	3	1	3	2	1	1	2	3	2	0	0	0	21